

令和6年度 第2回大船高等学校 学校運営協議会 議事録

1. 日 時 令和6年11月29日(金) 14:00~15:10
2. 場 所 県立大船高等学校 会議室
3. 出席者 (委員) 幸田 隆 (校長)
(敬称略) 太田 洋 (鎌倉市立大船中学校長・有識者)
富沢 宗実 (円覚寺塔頭帰源院住職)
黒澤 全匡 (同窓会長)
喜田 薫博 (高野台自治会長)
(事務局) 加藤 玲子 (副校長) 金子 哲子 (教頭)
篠田 哲夫 (事務長)
野澤 裕子 (学習支援G) 面高 崇 (進路支援G)
岩本 祐和 (生活支援G) 須山 諒 (進路支援G)
老沼 晴彦 (管理情報G) 山中 政志 (地域連携G)

4. 議 題

(1) 学校長挨拶

- ・第1回学校運営協議会の内容についての確認
- ・本日の議題について
- ・大船モデルについての説明

(2) 協議「令和6年度 学校評価報告書(中間報告)」

各グループから報告書に沿って説明

学習支援G 令和8年度入学生用のカリキュラムを検討中

国公立理系の生徒向けの理科科目等を主に検討している。

1学期終了時のアンケート結果は満足度68%、2学期以降も同様に調査予定
通信教育について県より3月末に通知、実施中。まだ試行錯誤中

進路支援G 一貫した指導のため、「コーチングマニュアル」を活用

進級の際にはClassiを活用して生徒情報を引継ぎしている。

Classiの学習記録機能を活用することで、積極的に学習を習慣化させていく。
進路講演・模試分析会を通じた外部刺激による意識改革を促している。

生活指導G サポートドックのアンケート結果によって、プッシュ面談の実施について学年
で検討し、その結果を受けて、SC・SSWの面談へとつなげている。

生徒支援G 白帆祭(文化祭)では、「世界旅行」をテーマにクラス単位で企画・運営を生徒中
心で行った。昨年度同様の交通系ICでの決済を導入した。

六国祭(体育祭)は、生徒中心での運営のもと、応援・チア・仮装・パネルに分
かれた活動を行った。また、パネルに参加した生徒は前日までの活動にならない
よう、当日の活動にも参加した。

生徒会の活動として、鎌倉地区交通安全大会への参加や、湘南アイパークでの
活動発表「新湘南ウェル・ビーイングフェスタ」への参加(横浜国立大・藤沢清
流と連携)を行った。

卓球部・バレーボール部・陸上部が活躍している。

管理情報G 清掃活動のタイミングを、行事や教育活動の変更に伴って変更した。

避難訓練では教員の主導なく、自分たちで集合した。秋にはDIG訓練の実施。

地域交流G 外部に対する情報発信を行っている。全公立展・公私合同説明会に約2,000名
OSGは8月に予定していたが悪天候のため中止となった

学校説明会(9月:1,300名)(11月:900名)を実施。※部活動体験も実施
アンケート結果では概ね満足が70%以上であった。

ホームページ更新頻度を上げている。

管理職 働き方改革の推進については、部活動等の活動が活発化し、職員の時間外勤務が減らない現状がある。

質疑応答

太田委員：カリキュラム、学習指導に対して、実際に塾で補っている生徒はフォローするか。

学校内で完結させたい意向があるか。

野澤総括教諭：なるべく本校での指導内で希望進路の実現をさせたい。現3年生の模試結果が向上しているため、新カリキュラムの成果は出ている。

太田委員：一人一台端末利用に関して、今後は満足度を上げることが目標になるか。

野澤総括教諭：満足度を上げていきたい。学校内の平均値が68%であり、授業担当者間の差異がある。

富沢委員：教科特性によって、端末を使う必要がない科目もあるのではないか。

野澤総括教諭：「書道」の授業等では活用が難しいため、アンケート内容を再検討し、活用に対する満足度を調査するような形式も考えられる。

太田委員：通信教育について「学校復帰を目指した通信教育」の意義は何か。

野澤総括教諭：安易な単位認定にならないように留意したものである。また、36単位までの認定という制限から、少しずつ学校生活に戻ることを目指させたい。

太田委員：進路指導に関して、大船モデルとキャリアパスポートとの関連性は？

面高総括教諭：活用に苦慮しているのが現状である。そのため、今年度中に取りまとめ、来年度以降の活用を予定している。毎学期の振り返りは現在実施中である。

富沢委員：進路指導記録やサポートドッグなどの情報は、進級時に内容を引き継げるか。(カルテのような形式で)

岩本教諭：Classiを活用した引き継ぎをすることで生徒情報を共有できている

黒澤委員：部活動が活性化してよいことである。外部の協力も活用してほしい。

喜田委員：部活動の活性化はとてもよいことである。続けていってほしい。

黒澤委員：白帆祭(文化祭)などPTAの協力を求めるのはどうか。

山中教諭：検討していきたい。

喜田委員：防災訓練時に自治会が参加し、とても好評であった。高校生の自主性が素晴らしいと町内会で意見が出た。

富沢委員：教職員の仕事の持ち帰りはどのような状態か。

副校長：現状、持ち帰る教員がいる。会議を時間内に終了させたり、地道に声をかけたりすることを続けていく。

(3) その他

電子黒板の導入について(校長)

新しいツールであるため、教員自身が学び続ける必要がある。研修の実施が必要と感じている。